

【農業関係】

- 奥能登地域では、令和5年比の約6割で水稻の田植えが終了。秋の収穫に間に合うよう、乾燥調製施設等の迅速な復旧整備を図るとともに、来期の営農再開が可能となるよう、農地等の復旧を引き続き支援。畜産分野は約7割の農家が被災前の出荷量・頭数に概ね回復。今後とも、機械の復旧等の支援措置の申請手続きも含め、個別農家の状況に応じたきめ細かな伴走支援を継続。

【林野関係】

- 国直轄による災害復旧等事業では、5区域9箇所について山腹崩壊等の復旧を実施。
- 奥能登地域の被災林業者の雇用維持及び県の素材生産量維持のため、当該者の金沢森林組合等における従事を支援。

1. 農業関係の取組状況

<水稻作>

- ・ 奥能登地域では、**令和5年比の約6割（約1,600ha）**で水稻の田植えが終了し、水稻の作付けが困難な水田でも、大豆の播種や夏播きの**地力増進作物の播種準備等（200ha以上）**を進めており、更なる作付拡大を図るべく引き続き支援。※中能登以南は概ね例年どおりの水稻作付け
- ・ 秋の収穫に間に合うよう、**乾燥調製施設等の迅速な復旧整備を開始**。また、来期の営農再開に向けた**農地、水利施設の復旧や、生活再建に向けた農村インフラ等の復旧**を引き続き支援。
- ・ **MAFF-SATを現地に派遣**（延べ10,000名以上。奥能登関係市町に計6名配置）し、**応急復旧等を支援**。また、国・県・JAが連携して設置した**相談窓口**（石川県下5箇所のJA）に、**MAFF-SAT**を配置し、個人の機械の復旧等も含めた**伴走支援**を継続。

【本年度の営農継続に向けた支援】



<被災水田での大豆の播種（珠洲市）>

【来期の営農再開に向けた支援】



<パイプライン修繕工事（能登町）>

【生活再建に向けた支援】



<農業集落排水施設における管路の仮復旧（能登町）>



<畜産>

- ・ 発災直後からの緊急対応として、停電、断水農家に対する発電機や水タンクの供与、給水車の確保等により、**家畜の飼養ができない事態は回避**。
- ・ 石川県下の被災農家（全74戸）に対して**毎日声掛け**を行い、**支援策の説明等**を実施（1/6～2/3）。その後も**奥能登地域の農家（全42戸※）**を中心に**巡回し、畜舎の再建等に対する相談対応**を実施中。
※奥能登地域の畜産農家42戸全てが被災
- ・ 奥能登地域では**約7割の農家（28戸）が被災前の出荷量・頭数に概ね回復**。
中能登以南では出荷量・頭数は概ね回復。



<水タンク・発電機による給水>

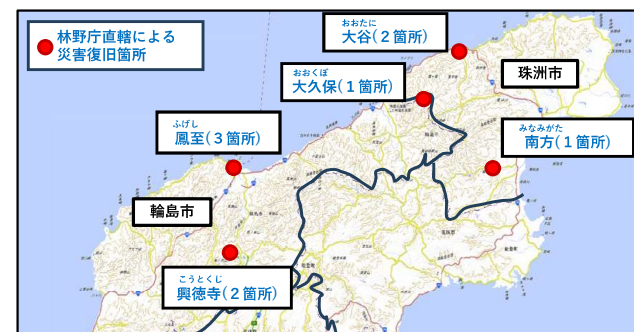


<巡回・相談対応>

2. 林野関係の取組状況

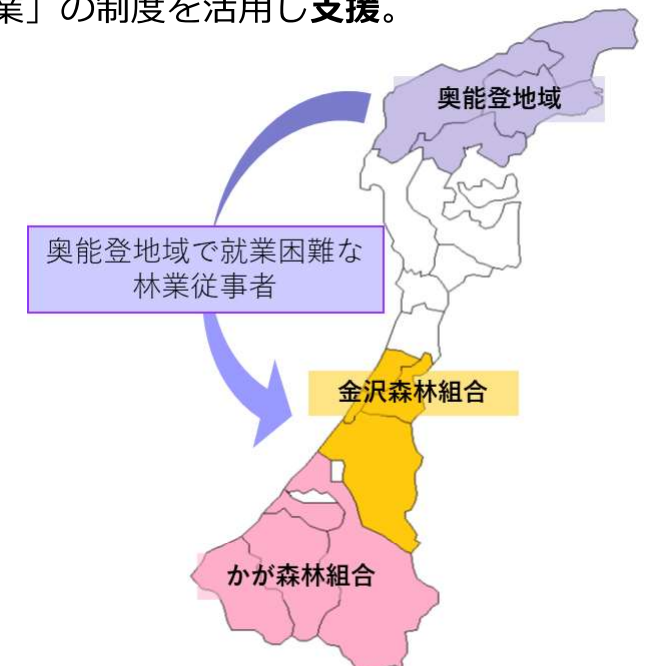
○直轄治山事業による山腹崩壊対策

- ・ 奥能登地域5区域9箇所について**国直轄による災害復旧等事業に着手**。



○被災林業者支援対策

- ・ 奥能登地域の被災林業者を一時的に雇用する金沢森林組合等に対して、「緑の雇用担い手確保支援事業」の制度を活用し**支援**。

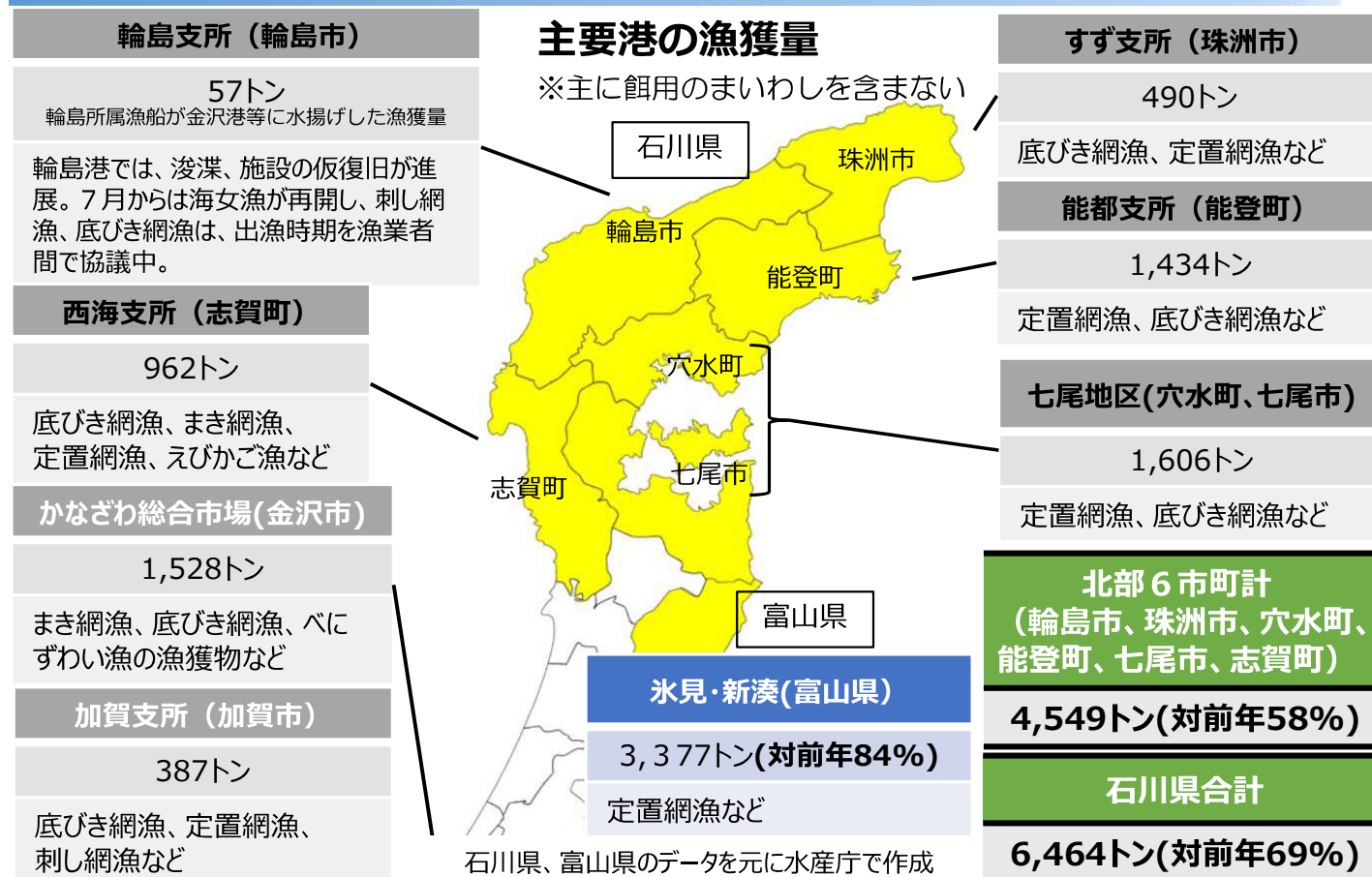


漁業再開・漁港の復旧復興に向けた取組状況

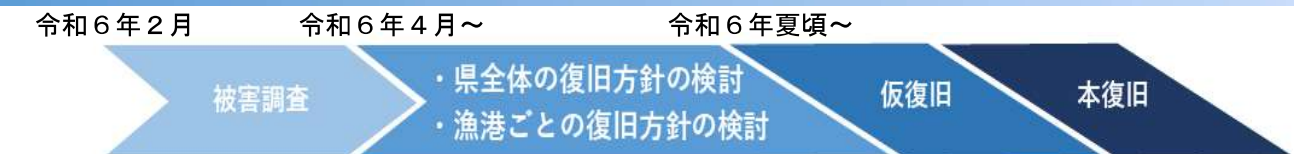
農林水産省

- 応急復旧を行った施設や船体損傷がなく航行可能な漁船等を活用し、定置網漁・底びき網漁等が再開。本年は定置網漁によるぶり等の漁獲が好調。
- 輪島地域では浚渫の進展を受け、自走可能な漁船の移動が進捗。国の事業を活用し、舢倉島等でのガレキ回収、海女漁業者による漁場調査が実施され、地元は、7月から、まず、もずくを漁獲対象とした海女漁を試験的に再開する予定。
- 国の直轄代行工事により、漁船の避難港である狼煙漁港では、早期の機能の回復に向け浚渫を実施中であり、鵜飼漁港海岸では、珠洲市と連携し、今後、復旧に向けた設計等を実施。また、被災した漁船・漁具の復旧のため、漁協が行う漁船等の導入の支援を継続。

1. 漁業再開の状況(1月～5月) [漁港の仮復旧の進展等により順次再開]



2. 地盤隆起等甚大な被害を受けた漁港への対応



<復旧方針の検討>

- ・国(水産庁、国土交通省)も協力し、石川県は「能登の水産関係港の復興に向けた協議会(復興協議会)」を3月25日に設置。復興協議会には、石川県の漁業者・団体、国・県・市町、研究機関等が参加。5月8日から復興協議会の下に分科会を設置し、港の復興方針を検討中。
- ・漁業の早期再開に向けて、国（水産庁）による輪島市、珠洲市管理の漁港の仮復旧方法の選択肢の提示や、関係団体による工事発注へのサポート等、仮復旧の早期実施を支援。
- ・国（水産庁）は、5月16日に有識者による「能登半島地震漁業地域復旧・復興技術検討会」を設置。①漁港施設の被害状況、被災パターン分析、②被災パターンに応じた復旧方法・手順等について検討し、7月中に取りまとめの上、県が設置した復興協議会に提示。



復興技術検討会（金沢市、6月）

3. 現地支援の状況

○漁港・海岸の直轄代行工事

- ・狼煙漁港の早期の避難機能の回復に向け、水深確保のための浚渫工事を実施中。鵜飼漁港海岸は珠洲市の復興まちづくりとも連携し、今後、復旧に向けた調査や設計等を実施。



狼煙漁港における浚渫工事（珠洲市、6月）

○被災した漁船・漁具の導入

- ・被災した漁船・漁具の復旧のため、漁業協同組合等が行う漁船等の導入の取組を支援。

○休漁中の漁業者による漁場復旧の取組支援

- ・石川県の七尾市、能登町、輪島市、珠洲市では漁業者の生活を支えつつ、漁場環境回復のための活動を実施。

○現地支援拠点を通じた対応等

- ・水産庁職員の活動拠点として4月に穴水町に設置した現地支援拠点を活用して、漁協支所等を訪問し、被災漁業者への支援策説明、県や漁協等との密接な連絡調整等を継続。
- ・漁港の災害復旧の早期実施に向けて、災害査定の準備等を行う地方公共団体の漁港技術職員を石川県、富山県、輪島市等へ派遣するなど人的支援を継続。

○ 輪島の海女漁の操業再開に向けた動き

国の事業を活用し、海女漁業関係者は、舢倉島漁港のがれき等の回収活動、もずく、さざえ及びあわび漁場の調査を実施。7月から、海女漁を試験的に再開予定。

6月

- 【漁場調査】舢倉島などで、もずく、さざえの生育状況の調査を実施
- 【漁港機能】舢倉島漁港のがれき回収は6月に概ね完了
- 輪島港の製氷施設・荷捌き所は応急復旧を行い、一部使用可
- 【漁船移動】浚渫の進捗等により、輪島港の漁船の移動が進捗

7月

- 【漁業再開】輪島港を拠点に、まず、もずくを漁獲対象にして、海女漁を試験的に再開する予定
- ※地元は他の漁業も順次操業再開に向け準備
- 漁船・施設の修理・復旧を継続



海女漁業者によるさざえ等の状況調査（輪島市沿岸、6月）